

タイトル	著者名	内容紹介
星を編む	凧良 ゆう	『汝、星のごとく』で語りきれなかった愛の物語。いつでもそこには愛があった。ああ、そうか。わたしたちは幸せだったのかもしれないね。
夜明けのはざま	町田そのこ	せめて自分自身には嘘をつかずに生きていきたい。死を見つめることで、自分らしく生きることの葛藤と決意を力強く描き出す。
ツミテミック	一穂 ミチ	夜の街で客引きのバイトをしている優斗。ある日、バイト中に話しかけてきた大阪弁の女は、中学時代に死んだはずの同級生の名を名乗った。心揺さぶる全6話。
名探偵じゃなくても	小西マサテル	『名探偵のままできて』続編。 “密室状況からの消失” “学校の七不思議” —— 謎を解くのは認知症を患う、私の祖父。
人間標本	湊 かなえ	人間も一番美しい時に標本にできればいいのにな。五体目の標本が完成した時には大きな達成感を得たが、再び飢餓感が膨れ上がる。今こそ最高傑作を完成させるべきだ。果たしてそれは誰の標本か。
宙わたる教室	伊与原 新	東京・新宿にある都立高校の定時制。「もう一度学校に通いたい」という思いのもとに集った生徒たちは、科学部を結成し、学会で発表することを目標に「火星のクレーター」を再現する実験を始める。
墓じまいラブソレイ	垣谷 美雨	絶対にお父さんと同じ墓にいれないで！突然明らかになった義母の遺言から始まった墓問題。それは親類や子供たちを巻き込み、墓の必要性などを考えるきっかけになっていく。明日は我が身の墓騒動小説。
なれのはて	加藤シゲアキ	守谷は、李久美から、祖母に譲り受けた作者不明の絵を使って「たった一枚の展覧会」を企画したいと相談を受ける。二人が素性のわからない画家の正体を探り始めると、ある一族が、暗い水の中に沈めた業に繋がっていた。
一線の湖	砥上 裕将	『線は、僕を描く』第二弾！大学3年生になった霜介は水墨画家として成長を遂げる一方、進路に悩んでいた。そんな折、霜介が小学一年生を相手に水墨画を教えることになる。